

「協働・連携」の現状とこれから ～個々の「リーダーシップ」を発揮して考える～

担当：第4ブロック

1 目的

協働・連携について主体的に考え、他者による新しい考え方を知ること、事務職員としての幅を広げるとともに、個々のリーダーシップ力を高める。

2 内容

(1) 「協働・連携」の現状とこれからについて

第4ブロック各支部の実情をまとめ、課題や目指すべき在り方について考えた。

■鯖江支部

鯖江市では、平成25年度に市教育委員会事務局や教頭会代表者との合同会議を行い、それぞれの意見を取り入れながら「教材・学年会計処理の市内統一」に取り組んだ。そのような経緯から、現在も共同実施や学校事務のあり方について一緒に考え、取り組んでいく体制を継続している。

平成28年度からは、市教委の担当者と市内全校の教頭、事務職員が参加する市教委・教頭会・事務職員合同研修会を行っており、今年度で5回目となった。合同研修会を行うにあたり、各代表者が課題と感じている内容について協議し、研修内容を決めている。また、準備・運営についてもお互いに協力し合いながら行っている。昨年度は「現金の取扱い」と「業務改善」についてグループ討議を行い、活発な意見交換の後、全体で共通理解をした。その後、市教委・教頭会・事務職員代表者合同会議を開催し、改善した方がよい事項について協議し、現金を保管するときに記入する「金庫日誌」について、令和2年4月から市内全校で取り入れている。

今年度の合同研修会では、4月から鯖江市に導入された県の校務支援システム「C4th」について研修を行った。導入されてから各学校で生じた疑問点や問題点について事前にアンケート調査を行い、当日は遠隔システムで株式会社エデュコムから回答をいただいた。その後、市教委・教頭会・事務職員代表者合同会議を開催し、入力方法や諸帳簿の作成・保管をどのように行っていくかについて意見交換を行った。今後、引き続き代表者合同会議を行い、令和3年度からは市内統一した内容で「C4th」の運用を行う予定である。

近年、事務職員と共に管理職の世代交代が加速し、数年で半数の人員が入れ替わってしまう状況の中、誰が赴任しても学校事務がスムーズに進むような事務職員と教頭との関係づくりや学校事務への共通認識が重要となってきた。今後も具体的な業務改善につながる取組を行っていきけるよう、より踏み込んだ協議ができる関係を築いていきたい。

■越前・今立支部

越前・今立支部では、共同実施も含め学校事務全般の課題について業務改善チームを設置し、効率化および標準化を促すために共通する課題の検討をしている。毎年、当該年度中に課題が絞られ、次年度より課題解決に向けてメンバーを精選し検討が開始する。チームのメンバーは課題に応じて専門性のある教職員が選ばれ運営する。事務職員だけでなく、教員、養護教諭、管理職にも及ぶこともある。もちろん、共同実施協議会との連絡調整も行い、成果報告を含めて市内統一に向けての周知なども行われる。また、年に約3回行われる共同実施全体会では、毎回教育委員会との情報交換も行っている。

しかし、「協働・連携」に関するアンケートをとったところ、共同実施で他職種・他組織と協働・連携して業務に取り組んでいると答えた事務職員は、約4割にとどまった。

「事務職員からのアプローチだけでは『協働』に見えない」「『事務職員のための共同実施』と捉えられている」という意見があり、他職種・他組織に事務職員の活動を理解してもらえず、事務職員の活動が一方通行になってしまっているという現状がある。また、「協働・連携について理解の深度が違う」という意見もあり、事務職員の間でも協働・連携について意識に温度差があることが分かった。

今後はグループ間の関係をより密に保ち、事務職員だけではなく他職種・他組織も共同実施の場を活用して、相互に理想とする「協働・連携」の在り方をすり合わせていく必要があると感じる。「協働・連携」を通して業務改善や働き方改革に繋がる取り組みを探していきたい。

■南条支部

南越前町は、学校事務業務に占める町予算執行や予算要求事務の負担の割合が高く、教育委員会と密に連携しながら、日々の業務にあたっている。共同実施にて教育委員会担当者に出席いただき、予算執行にかかる諸注意など細かに説明していただく機会も多い。平成27年度には、学校事務の効率化および省力化を図り、さらなる事務処理の適正化に資する目的で予算執行における学校と教育委員会の事務分担の見直しが行われた。また、令和4年度に町内3中学校の統合が予定されている。そのため中学校統合準備委員会組織の中にも、事務職員部会（共同実施）が位置づけられており、さらなる教育委員会との連携が必要となっている。

また、共同実施を通して、学校事務職員間の連携・強化も図られている。定例の業務に加え、昨年度は教材備品台帳の町内統一にも取り組み、学校間の情報共有の面でも成果が得られた。共同実施では業務の担当を割り振り、各人が連携・協力のもとリーダーシップを発揮して業務にあたる体制づくりが図られている。

一方で、教員や外部機関との連携・協働については課題がある。教員と連携した学校業務の改善、教育活動の支援など取り組むべき課題は多いが、なかなか進捗していないのが現状である。外部機関との連携についても、「連携できる部分がもっとある」「連携が重要である」と感じている一方で、連携の進め方が分からないといった意見が多い。地域や教育委員会など学校に関わる組織のつながりを充実させ、各組織が相互に協働・連携していける体制を作っていかなければならないと感じている。

現在、南越前町では、事務職員の大半が経験年数10年以下の者で構成されており、これまで以上に事務職員間のつながりが重要となる。事務職員間の連携・協働を保ちながら、教育委員会、学校教職員、外部機関などとの連携・協働を推進していきたい。

■丹生支部

教員や他の組織との協働・連携が「自校ではできている」と感じている事務職員が多くいる一方、「共同実施ではできていない」と感じている事務職員が半分以上いる。その理由として、「事務職員のための共同実施だと感じている教員が多い」、「何をしているのかあまり認知されていない」という意見が多くあがった。これは共同実施が始まった頃からの悩み・問題でありながら、なかなか解消されないことの一つである。学校事務様式集や教員のための学校事務マニュアルを整備したり、文書管理を町内で統一したりしてきたが、事務職員だけでできる範囲の取り組みに終わっており、教育委員会や教頭会等の他の組織との連携をほとんどしていないというのが現状である。また、教育委員会や教職員の人事異動がある中で、協働・連携の体制をきちんと築くことができていなかった。

『協働・連携をもっと進めていくべきか』というアンケートでは、「事務職員の負担が増えることに抵抗がある」との意見はあったものの、6割の人はしていくべきだと答えた。「教員等と合同で研修を受けてみたい」、「校務支援システムをもっと利用して学校全体の業務改善となるような取り組みをしたい」など、今後取り組んでみたいことに関してもたくさんの意見が出た。なかなか一歩踏み出せずにいるものの、まだまだできることはあると感じている事務職員は多くいるようである。

今後は共同実施推進協議会のお場をもっと活用したり、教育委員会や管理職に積極的に意見を求めたりと、全体が一体となった共同実施を進めることで、可能性をもっとひろげていきたい。そして、組織間の協働・連携の体制を強固なものにし、それが継続されるようにしていきたい。また、私たちも含めた教職員全体の業務改善となるような取り組みや方法を、模索していかなければならないと感じた。

(2) グループワーク

第4ブロック各支部でグループワークに取り組んだ。

テーマを業務改善とし、事例から考えられる課題の中から最も解決したい課題は何か、誰と協働・連携し、どのように解決していくかをチーム別に話し合った。

①グループワークの目的、進め方、ねらい

目的	進め方	ねらい
ア) 協働・連携について主体的に考える	各自が事例を読み、何を課題と思うのかを考える。その後、誰と協働・連携して解決したいかをワークシートにまとめてから、チーム間で話し合いをする。また、目指すべき姿も考える。	自分の考えにはなかった新しい考えに触れることで、事務職員としての視野を広げる。協働・連携は目的ではなく、目指すべき姿へと近づけるための手段であると理解する。
イ) 合意形成力を高める	課題をチームで一つに絞り、解決方法を話し合いにより導き出す。「必ず話し合いにより結論を出す」、「自分や相手の意見を大切にする」などのルールをあらかじめ設定しておき、チーム全員が納得しながら進める。	全員の納得を得ながら進めることの難しさとともに、その有効性について体感する。取り組みへの納得感があることで、チームのモチベーションが向上することに気づく。
ウ) リーダーシップ力を高める	振り返りシートやアンケートに取り組む。	自分や他者がチームにとってどのように貢献したかを客観的に振り返り、チームを高めるためにどのように振る舞うとよいかを考えるきっかけとする。

②参加者の声（各支部から寄せられた感想の一部）

- ・それぞれが意見を持っていたが、うまくまとめることができた
- ・皆さんがたくさん意見を出して、それをきっかけに自分も意見を出すことができた
- ・たくさんの意見を知り、有意義な時間になった
- ・相手の意見を十分に引き出せたかは自信がない
- ・もっと皆さんの意見を引き出すべきだった。
- ・皆、自然とそれぞれの役割につき、スムーズにグループワークを行うことができた
- ・同じ内容を読んでも課題とすることがグループによって違うということが大変面白いと思った。
- ・自分の意見を述べるだけでなく、相手が納得できるように自分の中で意見をまとめる大事さを学んだ。
- ・短い時間の中で意見を出し合い、一つの結論にまとめることの難しさを知った。
- ・自分の考えている面とは違った面からの意見も聞くことができた。
- ・一人で考えているよりも、より深いところまで考察できて良かった。
- ・どうしたらもっと効果的な仕事ができるのかについて考えを深められた。
- ・いろいろな考え方に触れ、新たな考えをもつことができた。
- ・どんな風に他職種と連携できるか自分なりに考えられた。
- ・同じ部分を課題としていても、そんな解決方法や視点があったのかと気づかされることが多くあった。

3 まとめ

（越前町教育委員会指導主事の言葉より抜粋）

課題を考え具体的に分析して目の前の解決を考えるだけでなく、その先の目指すものまで考えるというのは、教員の研修でも取り入れたいすごい手法だなと思いながら、見せていただいた。いろいろな人の意見を聴くとか、知るということはやはりすごく大事なことで、今取り入れられなくても、どこかで聞いたことあるなという引き出しをたくさん作っておくことで別の時に使えたりとか、活用出来たりできる。

「教員と事務職」職種の違いとよく言うが、言い換えるとお互いに専門職ということ。連携とは、お互いの専門性を活かして一つの大きな課題を解決していくことであり、協働とは、お互いのことを知って、何か目的のために協力していくこと。

自分が受け持っている児童や保護者の方には必ず、困ったことはその日のうちに言ってもらいたい、連絡してくださいと伝えている。それは、教員も事務職の方も同じ。困ることはその日のうちに、教頭先生なりにお伝えしていただきたい。解決はすぐしなくてもいいので、何かしらアプローチしていただけると良いのかと思う。